

血液の採取方法

血液の採取方法

① 真空管採血の手順

1. 医師は採血の内容・必要性・起こりうる問題点等について可能な範囲で患者に説明し、少なくとも口頭で同意を得ることが望ましい。
2. 医師は採血の指示を書面またはコンピューターを用いて行う。
3. 採血者は採血管を準備し、ラベルが適切に貼付されていること、およびラベルの記載内容を確認する。(以下は全て採血者が行う。)
4. 必要物品を準備する。
5. 姓名等を患者に名乗ってもらい患者の確認を行う。
6. 事前に確認すべき事項について患者に尋ねる。
7. アルコール擦式消毒薬で手指消毒し、使い捨て手袋を着用する。
8. 駆血帯装着前に、目視および指で触れて穿刺すべき血管について見当をつける。
9. ホルダーに採血針を取り付ける。
10. 患者に採血に適した姿勢をとってもらおう。
11. 駆血帯を装着する。
12. 患者に手を軽く握ってもらおう。
13. 指で触れて穿刺する血管を決定する。
14. 穿刺部位の消毒を行い、消毒液が乾燥するまで待つ。
15. 針を血管に対して30度以下程度の角度で刺入し、針が動くことのないようにホルダーを保持する。
16. 採血管をホルダー内へまっすぐ差し込み、血液の流入を確認する。
17. 必要量の血液を採取した後、直ちに採血管をまっすぐホルダーから抜去する。
18. 順次採血管に血液を採取する。
19. 採血の終わった抗凝固剤または凝固促進剤入りの採血管は、確実に転倒混和する。
20. 最後の採血管をホルダーから抜去し、その後、駆血帯を解除する。
21. 穿刺部位に消毒綿またはガーゼを軽くあてた状態で針を抜き、圧迫する。
22. 針とホルダーを一体のまま、黄色のハザードマークの付いた鋭利器材用の感染性廃棄容器に廃棄する。
23. 止血を確認できるまで5分間程度、穿刺部位を圧迫する。
24. 採血後の採血管の取り扱い手袋着用のみで行う。

② 注射器を用いた採血の手順

1. 医師は採血の内容・必要性・起こりうる問題点等について可能な範囲で患者に説明し、少なくとも口頭で同意を得ることが望ましい。
2. 医師は採血の指示を書面またはコンピューターを用いて行う。
3. 採血者は採血管を準備し、ラベルが適切に貼付されていること、およびラベルの記載内容を確認する。(以下は全て採血者が行う。)
4. 必要物品を準備する。
5. 姓名等を患者に名乗ってもらい患者の確認を行う。
6. 事前に確認すべき事項について患者に尋ねる。
7. アルコール擦式消毒薬で手指消毒し、使い捨て手袋を着用する。
8. 駆血帯装着前に、目視および指で触れて穿刺すべき血管について見当をつける。
9. 使い捨ての注射器に注射針または翼状針を取り付ける。
10. 患者に採血に適した姿勢をとってもらおう。
11. 駆血帯を装着する。
12. 患者に手を軽く握ってもらおう。
13. 指で触れて穿刺する血管を決定する。
14. 穿刺部位の消毒を行い、消毒液が乾燥するまで待つ。
15. 針を血管に対して30度以下程度の角度で刺入する。
16. 針への血液の流入を確認し、針を血管内に確実に挿入した後、針が動かないよう、注射針を用いた際には注射器を、翼状針では翼部を保持する。
17. 必要量の血液を採取する。
18. 駆血帯を解除する。
19. 穿刺部位に消毒綿またはガーゼを軽くあてた状態で針を抜き、圧迫する。
20. 採血管に血液を分注する。
21. 抗凝固剤または凝固促進剤入りの採血管は、確実に転倒混和する。
22. 針と注射器を一体のまま、黄色のハザードマークの付いた鋭利器材用の感染性廃棄容器に廃棄する。
23. 止血を確認できるまで5分間程度、穿刺部位を圧迫する。
24. 採血後の採血管の取り扱い手袋着用のみで行う。

*注意事項・補足事項など

血管が細い患者などで真空管採血が困難な場合、あるいは真空管採血による合併症のリスクが大きいと考えられる場合には注射器と注射針(または翼状針)を用いた採血が行われる。注射器を用いた採血法では、採血者の針刺し事故の危険性が増大することを考慮し、これを防ぐための対策を行う。真空管採血と共通の部分については、該当部分を参照のこと。

3 血液の採取方法